



「有松・鳴海絞り」の伝承と町並み保存に貢献

～ 中央発條(株) ～



町並み保存プロジェクトにも協力

当社の本社がある名古屋市緑区には400年の歴史を持つ「絞りの町有松」がある。現在も伝統の絞り技法で生産される絞り製品は、正式には「有松・鳴海絞り」と呼ばれ、経済産業大臣指定伝統工芸品および重要無形文化財記録保存に指定されている。

有松絞りは、1610年に竹田庄九郎が、三河木綿に絞り染めを施した手ぬぐいを売るようになったことが始まりと言われている。有松での絞り染めが盛んになるにつれ、周辺地域でも絞り染めが生産されるようになっていったが、尾張藩は有松絞りを特産品として保護したため、街道一の名産品に成長していった。明治に入ってから、有松絞りは次々と斬新な絞り染めを工夫し、新しい技法を生み出していった。ところが昭和の中ごろを過ぎると着物離れや安価な海外製品との競争、後継者難などから生産量は減少し、100種類を超えた技法も現在では大きく数を減らしている。一方で、テーブルクロスや日傘、Tシャツなど、時代の変化に合わせた製品を作製し、絞りの再興を目指している。

絞り職人の「いいものを作り続けたい」という熱い思いは400年が経った今も変わらず生きており、同じモノづくりを生業とする当社もその思いに大変感銘を受けている。この緑区を古くから支え、現在も様々な技法で多くの人々を魅了す

る有松絞りを後世に残したいと考え、当社は若手製作者や有松絞りに関係するイベントを支援し、江戸の面影を残す有松の町並み保存にも協力している。

他にはない技術と職人の情熱で400年間続いている有松絞り。当社も未来に残せる価値ある製品を作り続けていきたい。